



鷲野 聡明 議員

次期市長選への出馬は

**問** 市長として三年四九月、一期目の市政運営はどうであったかの感想を尋ねる。

**市長** 施設使用料の改定、水道料金の見直し等、市の将来を見据え苦渋の決断をしてきた。今後も実行に移していく。

我々、現役世代が現状のサービスを見直すことなく享受することで、いずれは将来の世代が苦しむことになるという思いのもと、覚悟を決め、その都度、議会や市民との対話に意を用いながら事業・サービスのあり方を根源から問い直し、改革の推進を図ってきた。

**問** 次期市長選挙への出馬について、どう考えるか。もし第二期を考えるのであれば、どのような市政運営をしていく思いがあるのか。現時点で話せる範囲で見解を尋ねる。

**市長** 来年の愛西市長選挙で再度、市民の皆様から負託が得られたならば、第一次総合計画という新たな旗を掲げ、その実現に向け、全力で取り組んでいきたいという決意だ。

今後の市政運営は一段と厳しさを増してくると思うが、厳しい現実にも決して目を背けることなく、不転換の決意でこの難局に当たる覚悟をしている。

私はこれまで、「進める決断」と「とどまる勇氣」の基本姿勢において、たとえ批判を受けても「進めるべきは進めるべき」であり、「とどまるべきはとどまるべき」ということを述べてきた。この初心を忘れることなく市政運営に当たっており、今後も同じような考えで進めていきたい。

市民協働を進めるにふさわしい市役所で、持続可能でよりよい愛西を目指し、その責任を果たすため、市民とともに、時代に合った新しい自治体の役割をしっかりと果たしていきたい。



▲答弁する市長



山岡 幹雄 議員

保育士不足の現状と課題は

**問** 保育の需要が高まり、保育士の確保が現在困難な状況である。市内の保育士の現状は。

**子育て支援プロジェクト担当部長** 市内の公立、私立保育園とも求人を出しても応募が少ない。配置基準の保育士を確保するのに苦慮している。

**問** 保育士不足の直接の原因は。

**子育て支援プロジェクト担当部長** 保育士資格取得のハードルが高く、資格を取得しても保育士の職につかない。

**問** 保育の仕事を取り巻く環境の変化は。

**子育て支援プロジェクト担当部長** 園児と直接かわる現場以外に、年間カリキュラムをもとに、日案、週案、月案を作成、幼児期における質の高い学校教育、保育の提供がある。保育においても教育的な側面が強まり、保育士が対応する子どもや家庭の状況が多様化、複雑化している。